

平成27年度 魚沼市国語部 活動報告

部長 関原 るみ子

1 研究主題

全員の子どもが楽しく「わかる・できる」国語授業の創造

2 研究の概要

- (1) 第1回国語部会【4月16日(木) 於：小出郷文化会館】
年間活動計画の立案
- (2) 第2回国語部会【7月10日(金) 於：湯之谷中学校】
中学校国語 師範授業・講演会
- (3) 第3回国語部会【8月7日(金) 於：宮柊二記念館】
宮柊二記念館見学と短歌の作り方指導研修
- (4) 第4回国語部会【11月13日(金) 於：堀之内公民館】
毛筆の指導・評価研修

3 研究の実際

- (1) 魚沼市学習指導センター特別研修講座
福島大学人間発達文化学類 教授 佐藤 佐敏 様による師範授業と講演会に参加し、研修を深めた。
 - 師範授業(中2「岩が」吉野弘)
 - 講演会「全員を連れていく授業と学力向上」
- (2) 宮柊二記念館見学と短歌の作り方指導研修
前半は宮柊二の生涯とその業績について、学芸員 森山丈順 様から映像を交えながら講義いただいた。後半は、短歌の作り方のポイントについて、宮柊二記念館長 小島克朗 様から数多くの作品をもとに指導いただいた。
- (3) 魚沼市新春小・中学校書道展研修会
審査員の 坂大優一 様 から毛筆の指導・評価のポイントを説明していただいた後、部員が書いた作品をその場で指導していただき、指導力の向上につなげた。

4 成果と課題

特別研修講座からは、師範授業を参観することにより、机間巡視の仕方や「出力・想起」場面の工夫について等、具体的に学ぶことができた。講演では、全ての生徒に力を付けさせる学びを保証するため、①全員参加 ②思考力を発揮 ③叙述(ことば)を基に考えること、の3点が重要であることとそのための具体的手立てについて御講演いただいた。

また、魚沼市出身の教員が少ないので魚沼市出身の歌人 宮柊二について学ぶ機会を設けたことは有意義であった。短歌創作のポイントとして、①形式を守る ②名詞を選ぶ ③新聞・テレビの言葉は使わない ④読者を意識する(5W1H)、を学んだ。研修したことを児童への指導に生かし、「第21回宮柊二記念館全国短歌大会」では市内から多くの作品が入賞した。

当市にとって学力向上は重要課題である。これら研修会で学んだことを各校で活用し、全員を連れていく「わかる・できる」授業づくりに取り組むことにより、学力向上につなげていく。